

令和3年度空知農業改良普及センター外部評価報告書

空知農業改良普及センターが取り組んでいる普及指導活動について、効率的、効果的に展開し今後の普及活動に役立てるため、地域で活躍する農業者や関係者、消費者及び有識者の皆様と意見交換を通じて今後の普及活動に活かすことを目的に、普及事業に関する外部評価を実施しましたので報告します。

I 日時・場所

令和4年3月2日（水）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から書面開催としました。

II 懇談会名

令和3年度空知管内地域農業づくり懇談会

III 参集範囲

地域における安全・安心な農産物生産や農村地域の多面的な機能等の理解とともに、農業改良普及事業に対する理解と協力を得るため、次の各分野から参集する。

- (1) 先進的な農業者
- (2) 若手・女性農業者
- (3) 農業関係団体
- (4) 消費者
- (5) 学識経験者
- (6) 報道機関
- (7) 民間企業

IV 報告内容

- 1 北海道農業改良普及事業の概要について
- 2 成果の上がった事例
 - (1) 本所：担い手を中心とした地域農業の振興
 - (2) 南東部支所：「由栗（ゆっくり）いも」で地域ブランド確立！
 - (3) 南西部支所：～輪作で築く持続可能な長沼農業～
 - (4) 中空知支所：アグリアドバイザーから地域への新たな提案
 - (5) 北空知支所：担い手を核とした持続可能な経営体の育成

V ご意見、ご感想等

1 北海道農業改良普及事業の概要について

- 初めての参加となりますが各普及センターの活動を知ることが出来て良かったです。
- 普及計画・目標の記載はわかりやすいと感じましたが、結果だけでなく普及活動のプロセス（農家との話し合いや農家の主体性を引き出す過程）を知りたいと思いました。
また成果のみではなく、うまくいかなかったことも記載してほしいです。
- どの地域においても若手農業者、担い手の確保が難しいのが現状です。これからも空知の農業が盛り上がっていきけるよう、よろしくお祈りします。
- 別紙 P.1「北海道農業改良普及事業の概要」の北海道地図の絵自体は良いのですが、地域ごとが見づらいです。別紙 P.3「農村の生活改善」という言葉に違和感がありますので、表現を見直してはいかがでしょうか。別紙 P.5以降はわかりやすく良いと思います。
- 「III 課題別普及活動計画」（P.4～）の課題名が地域の内容にリンクしていることは理解できますが、「(2) 第6期北海道農業農村振興推進計画に基づく空知農業改良普及センターの活動方針」（P.1）内

のどれに該当する課題か記載があれば、より理解しやすいです。

○課題の「現況→目標」ですが、例えば対象農家数（7戸）に対し「1戸→2戸」だと目標が低すぎる感がありますがいかがでしょうか。

○具体的推進事項に「土壌分析」「土壌診断」「施肥改善」が挙げられている課題を見かけますが、実際にどこで実施して、今後も継続的に続けられるのか気になりました。

○「2広域推進事項」(P.12)の表に具体的推進事項が記載されていないので、内容が分かりません。

○概ね地域課題の目標を達成していることは評価できると思います。事業推進において当会の会報への農業関連情報やイベント案内の送付、ホームページ連携など、情報発信のお手伝いが出来ますので、遠慮なくご提案いただければ。

○「普及事業の6つの特徴」の項目ごとの行頭に「○」等を付した方が見やすくなると思います。

○「空知農業改良普及センターの活動体制」(P.3)の表ですが、市町村名が「備考欄」という表現を見直してはいかがでしょうか。また「専普」「普職」という表記も一般的には分かりづらいと思います。

○「農業改良普及センターにおける活動体制」の中で、あえて「新規採用職員は地域係に配属」と記載する意図は何でしょうか？（地域係以外に担当者は配属されていないので）

2 成果の上がった事例

(1) 本所：担い手を中心とした地域農業の振興

○法人化に至るまでの女性農業者達の考え方の変化や後継者づくり等を知りたいと思いました。法人化へのハードルも様々だったと思いますが、それをどう乗り越えたかなどを管内で情報共有できれば他の地域の取り組みに活かされると思います。

○今後、水田活用の直接支払交付金の影響で今までどおりの作付けが難しくなっていく中、新規作物や省力化技術の普及が重要になってくると思いますので、今後このような取り組みをお願いしたいです。

○女性農業者や若手農業者に重点を置いた取り組みという点が素晴らしいです。同じ若手農業者として応援しています。私も若手農業者組織の代表をしていますので、多くの団体を盛り上げていただければ。

○慢性的な米の需要低迷にかかる対策としては、取り組みに記載されている「とりめし」のPR等、地域でのブランド化等、米の消費拡大対策に継続的に取り組まれていくことが必要ですし、省力化技術にあわせて、米の食味にも配慮した技術の確立が今後の空知産米のブランド化にも寄与すると思慮されます。

○「担い手」は19戸のうち誰なのか記載されていると良かったと思います。

○「3 成果の具体的内容」の「①水稻の省力化技術の導入」の記載に、自動操舵田植機、ドローン等の新たな技術の導入や水田自動給水装置の試験も入るのではないのでしょうか。

また「②秋まき小麦の収量向上」で小麦を栽培している全農家数が記載されていないので、改善・実践農家数の割合が分かりませんでした。

○「4 今後の課題と対応」で、農業粗収入の現状収入額を記載した方が分かりやすかったですし、どの活動の取り組みが収入増への貢献度が高かったのかの記載があれば良かったと思います。

(2) 南東部支所：「由栗（ゆっくり）いも」で地域ブランド確立！

○「由栗いも」はとても素晴らしいネーミングですね。由仁町と栗山町の若い農業者達が集まってクラブを設立して生産・販売されている、将来をも見据えた活動だと思います。

クラブが最優秀賞を受賞された北大マルシェアワードに審査員として参加させていただきましたが、活気あふれる発表でした。地域の活性化に寄与され、今後、地域のブランドとして活躍されることを期待しています。

○年々取り組みが進化しており、若い農業者たちが出来る範囲で挑戦していることに好感が持てます。

○普及センターの具体的な技術支援内容の記載があれば、クラブとの関係が分かりやすかったです。

○米の需給情勢が厳しい中、新たな新規作物の導入は若手農業者の意欲創出にも寄与されることと思慮されますし、新たな作物導入とブランドの形成を一体的に進めることで、農業者間の連携強化にもつながることが期待されます。

(3) 南西部支所：～輪作で築く持続可能な長沼農業～

○輪作体系は畑や田を飽きさせない作付けをしていかなければならないと思っていますが、子実用トウモロコシを取り入れた輪作体系は、まだ結果が出ていないように思えました。

○今後の普及課題にも輪作に向けた取り組みを入れていただきたいと思いました。

○水稲・小麦・大豆は空知農業の代表作物ですので、今後も様々な取り組みが品質・収量向上や生産性向上につながればと思います。

○水田活用の直接支払交付金の見直しにより、水稲を組み入れたブロックローテーションの確立が今後望まれることが想定されますが、麦、大豆に水稲を含めるうえでは、それぞれの作物の収量・品質を向上させる技術が農業所得の維持向上につながるものと思われま

す。○この地域は水田活用の直接支払交付金の影響を強く受けますので、その関連の記載がほしかったです。

○表1の根粒の着生数は1株あたり？少ない様に思えます。また農家ごとの茎長に大きく差がありますが、原因を知りたいと思いました。表2の被害粒率も同様です。

(4) 中空知支所：アグリアドバイザーから地域への新たな提案

○省力化と収量・品質の確保との両立が課題だと思しますので、今後、内容の充実とアドバイザーの人材確保が求められてくると思います。

○子実コーンは今後さらに普及が進むと思しますので、その栽培技術を持った方々が増えてくることを期待します。

○個別指導？集合指導？どのような形で82戸（テーマごとの戸数も）へ指導されたのか興味があります。

○「3 成果の具体的内容」で、密播中苗のデメリットはないのでしょうか？また密播中苗により余剰となった施設の活用事例はあるのでしょうか？直播ビート栽培の収量はどうだったのかなどの記載があれば良かったと思います。

○新規作物の「しょうが」は、具体的にどのような栽培方法（ハウス・露地）を考えていらっしゃるのでしょうか。また「情報発信の機会減少のため、発信手法の検討」とありますが、web 発信という手もあると思います。

○実績に掲げられているビート（てん菜）について米と同様需給状況等は厳しく、人工甘味料等の砂糖に代わる代替品の出現、消費者の健康志向による砂糖離れ等により、需要が減退しており、作付を増加させる環境にないのが現状です。新たな作物の導入に向けては、当該作物の今後の需給動向等の見直しも踏まえた対応が望まれます。

(5) 北空知支所：担い手を核とした持続可能な経営体の育成

○このような取り組みが地域に波及していくとともに、みんながスキルアップしていければ素晴らしいと思いました。

○昨今の国際情勢等を踏まえ、資材価格はさらに高騰することが予想される中、取り組みに記載されている土壌診断の実施による施肥設計は、適正な肥培管理、低コスト化にもつながる重要な取り組みだと思

いました。○管内の若手農業者交流ですが、北空知地域とは実現していません。こうした活動を他地域にもご紹介いただくのはいかがでしょうか。

○若手5戸が施肥設計を実施したとありますが、それ以外の農家は実施されたのかどうでしょうか。また土壌診断を実施した若手は何戸だったのでしょうか。それから、これら取り組みの結果、収量増につながったのでしょうか知りたいと思

3 地域農業の振興と地域活性化のために普及活動に期待することなど、普及センターの活動全般についてご意見・ご感想などがございましたらお願いします。

○試験ほ場にいらした際、生育状況や収量などを確認されていかれますが、その場に農業者がいても声かけされない普及員の方もいらっしゃいます。アドバイスや情報発信など農業者の対話をお願いしたい

と思います。

○好事例が管内全体に波及していくための課題や、普及活動時における普及員の悩みを知りたいと思いました。

○普及活動が地域に根ざしていることが分かりましたし、もっと広報や情報発信に取り組んでほしいと思います。

○素晴らしい成果が出ていると思いますので、新聞等へどんどんPRしてはいかがでしょうか。

○担い手・若手農業者の活動は年々規模縮小や衰退しているのが現状ですが、こうした活動は続けていくべきだと思っていますので、振興局などで若手農業者の交流会などを実施していただければ。

○空知の基幹作物である米を巡る情勢については、慢性的な米の需要減退に加え、新型コロナウイルスによりさらなる業務用需要の低迷等の影響により近年の米価も下落傾向にあります。さらには水田活用直接支払交付金の見直しもあり、今後も水田農業を巡る情勢は目まぐるしく変容していくことが想定されますので活動にあたっては、ご留意いただきたいと思います。

○農業はどうしても農政や市況に左右されますので、普及活動もそれを踏まえる必要があると思います。